



自己言及とは、自然言語や形式言語で文や式がそれ自身に言及することである。

言及は直接行われることもあるし、何らかの中間の文や式を通して行われることもあり

意味論的符号化によって表現されることもある。哲学では、主体が自身について言及できる能力すなわち一人称代名詞を主語として意見を表明できる能力を指す。

自己言及は、自己反射性および統覚と関係が深い。

自己言及は数学、哲学、コンピュータ・プログラミング、言語学などで研究・応用されている。

その場合自己参照とも呼ぶ。

自己言及文は逆説的振る舞いを示すことがある（自己言及のパラドックス）。

また、文章などでその作者が自分自身あるいは自分の属するもの

（例えば、日本人なら日本）について言及することを自己言及と呼ぶ。